

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 152

2020年7月24日発行 通巻No.162号

創刊2007年2月26日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL : 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～16時の間対応します。)

TEL&FAX : 03-6303-8265

MAIL : npokouken@gmail.com HP : <http://www.shiminkoukenninnokai.jp>

◆市民後見人養成講座◆

2019年度の市民後見人養成講座は、2月までは品川区中小企業センターで順調に開催してきましたが、3月7日と14日の講座(いずれも午後)は新型コロナウイルスの影響で延期していました。

その後、さらに事態が悪化し緊急事態宣言、東京アラート等があり、開催そのものが危ぶまれていましたが、6月27日に会場を品川区社会福祉協議会の会議室に移し、全日実施で2日分の日程を終了しました。

この結果、今回の受講生16名のうち、9名が入会しました。

その内の7名が後見業務担当を希望しており、今後、品川区社会福祉協議会成年後見センターの支援員として後見業務の研修をしていきます。
(記 杉谷徹夫)



◆2020 年度通常総会◆

会報前号（151号）でご案内しましたが、今年度の通常総会は新型コロナ禍の影響で書面出席者が多くなり、実際は新旧役員15名が質疑を行い、第1号議案から第5号議案まで全議案とも原案通り可決されました。議決の過程で活発な質疑応答がなされましたので、その内のいくつかを紹介します。

○ 留保金が多いがどの様に考えているか。

留保金の約半分は毎年の収益から蓄積した。後の半分は本会の活動に賛同された方からの遺贈によるもの。遺贈によるものは社会に還元する事業で使いたい。新しい事業を考えて行きたい。

○ 予算消化率が低いが。

コロナ対策があり中止となった事業があった（養成講座後半部、こうけんカフェ、月カフェ等）。

○ 2020年度予算計画はコロナ対策を予測していない時のもの。見直しも必要ではないか。理事会の中で検討して行きたい。場合によっては臨時総会も視野におく。

◆6 月度理事会報告◆

- 1 開催日時 2020年6月15日（月）17時30分～19時00分
- 2 開催場所 大井第二地域センター集会所
- 3 出席理事 朝倉鈴子、内山恵子、大金修、金城清、古賀忠壹、斉藤裕二、杉谷徹夫、杉山麻里子、高原三平、馬庭俊一郎各理事
- 4 オブザーバー 國枝園子、小松統各監事
- 5 議事

<議決事項>

- ① 既案件の後見等担当者について、20号の副担当及び33号の正副担当の交代について議決した。（交代日は2020年6月1日）
- ② 「C-18小口現金取扱細則」制定について議決した。

<報告事項>

- ① 2020年度通常総会について別添資料により報告があった。（高原）
（尚、今回の書面表決を主とした開催だったことを踏まえ、総会の様子、質疑応答など、広報したほうがよいとの意見があり、会報に掲載することとした。）
- ② 退会者について、以下の方々の報告があった。（5月31日付）（古賀）
・上田昌代、神谷擁、澁谷勝彦、島村慎一郎、長岡明男、松本重康の計6名
<会員数は86名（6月1日 現在）>

- ③ 2019年度市民後見人養成講座再開講について報告があった。(杉谷)
- ④ やしおカフェ(認知症カフェ)開催(6月8日)について報告があった。(金城)
- ⑤ 新型コロナ対策の経過及び今後について報告があった。(古賀、高原)
- ⑥ 6月6日現在の事務局、各部会の委員名簿の報告があった。委員の任期は特に定めは無く、事務局、各部会に委ねられていることが確認された(高原)

<今後の予定>

・7月27日(月)18時00分～20時00分 月曜カフェ

(記 高原三平)

◆施設訪問◆

本会が38番目に受任(平成30年2月)したSさん(68歳、男性、後見類型)は現在、東京都多摩西部の特別養護老人ホームに入所しています。要介護度4で日中はいつもベッドで横になり好きなマンガ本を読み続け、食事の時だけ車椅子で食堂へ行き、誰とも話さず一人静かに食事をするという生活です。受任後は月に1回程度施設を訪問しご本人と人間関係を築いてきましたが、新型コロナ問題で今年の2月以降は施設訪問が出来ませんでした。

しかし、7月15日、正副担当者2名(金城清、高橋宣子)で施設側の許可を得て我々は1階の駐車場に、ご本人は2階のテラス(建物の外にせり出している廊下)に車椅子で出てきて4か月振りに対面しました。

ご本人の声は聞こえませんでしたでしたが何か話しかけてきて、それを横にいた職員の方が伝えてくれました。1階と2階と離れてはいましたが久しぶりにお互いの顔を直接見ることが出来、こういう形の訪問もありかなと感じた次第です。(記 金城 清)

新型コロナ禍の脅威が収まりません。テレビを見てもニュースもワイドショーもコロナ一色です。ある精神科医が「コロナ関連のニュースばかり見ていると健康な人でもメンタルが弱ることがある。テレビは視聴率を上げて他社に勝とうとするから、どうしてもセンセーショナルになりがちだ。コロナ関連のテレビは1日に2本程度に抑えた方がいいだろう」と言っていました。もちろん「正しく恐れる」ことは大事ですが、コロナから離れて自分の好きな事に向かうのも良いかも知れません。難しいかも知れませんが。会員の皆様のご無事をお祈りします。(編集 広報部会)

